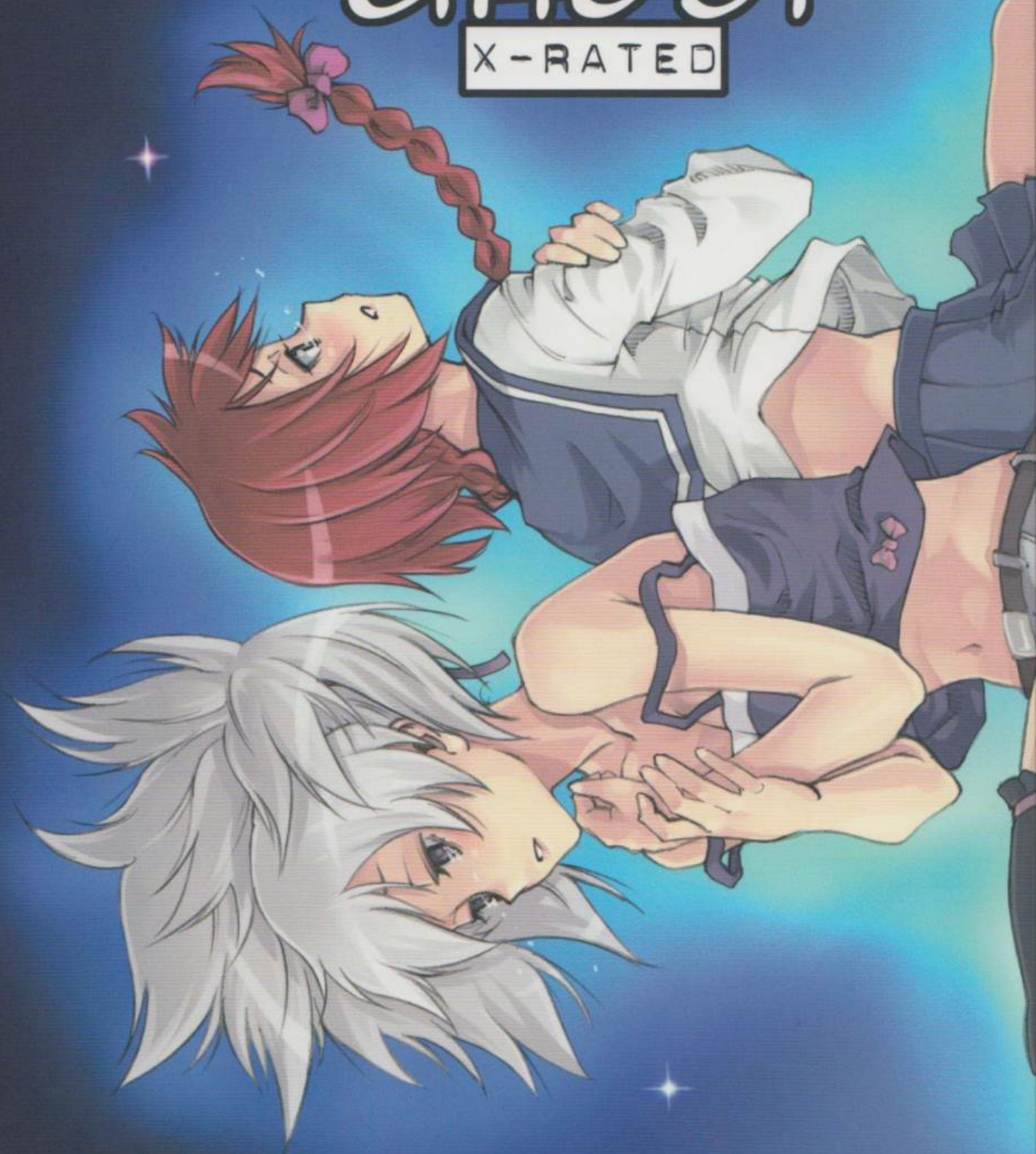
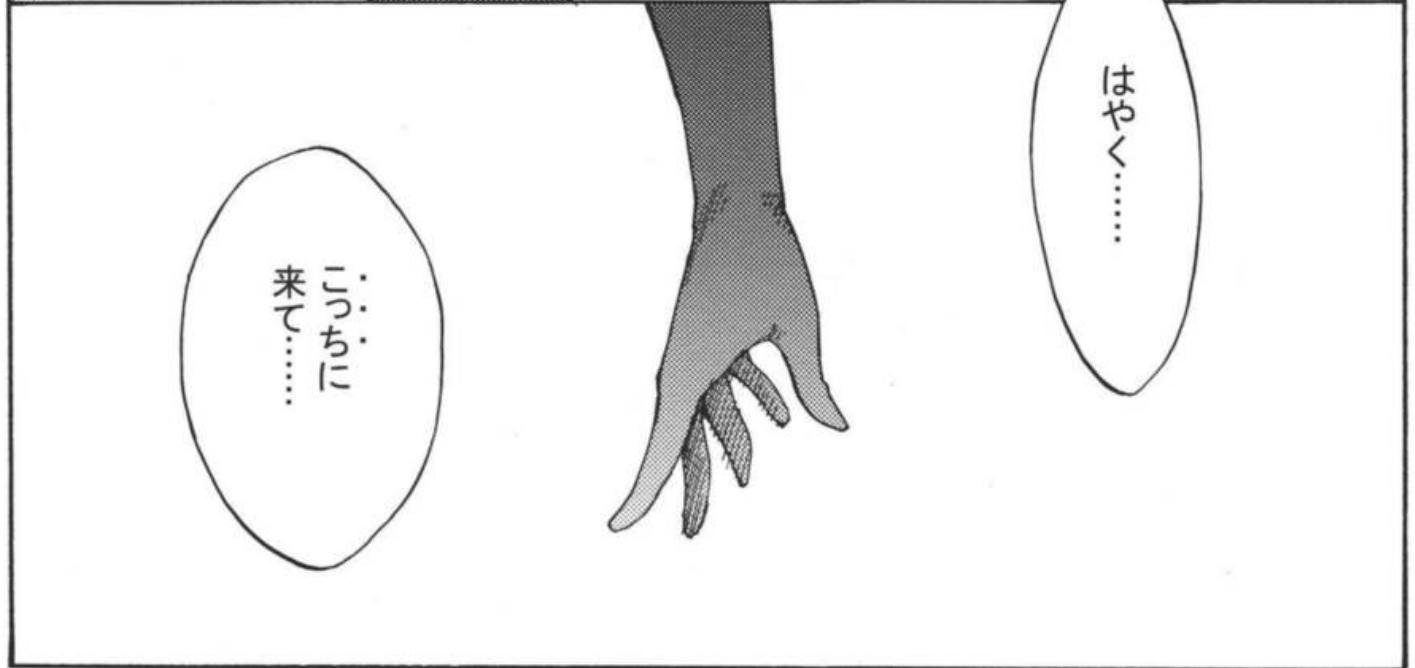


GHOST

X-RATED





こっちは来て……

はやく……



私は……

そっちは
行かない……

このまま
ずっと……

黒と
一緒に……



意外と
頑固ね

けど

そういう
想いが
そのまま

ん

ッ

私たちの
進化なのよ

ふん

にっ



ほら……
アナタは
こんなに
欲しがってる

気持ちいい
でしょう？

欲しいものが
手に入るのは



感情を
無くして
合理性を
極めた
ドールが……

もっと……
欲しいでしょ？

はっ

その心に
従って……

あ
あ

身も心も……
満たされたいん
でしょう？



ムくん、

んん

ここはあなたの精神の中

そう...

ムくん

夢の中と言ってもいいわね

今は私が支配している



は



あなたが今一番欲しいモノを

3D

感覚だけでも

欲しいモノを何でも

だからあなたに何でも与えられる

私がプレゼントしてあげる

3D



は

す

3D



さ♡

あなたの夢の中だもの

は

は

は

びくん?



わかるわよね?



逆らえない
いや
望んでしまう



そう...

いい子ね

心が

かあ
はあ
ああ

そんなに開くほど欲しいの?

勝手に

はしたない







黒

—
.....



「天国」って
信じるかい？

蘇芳は



天国？

……
？



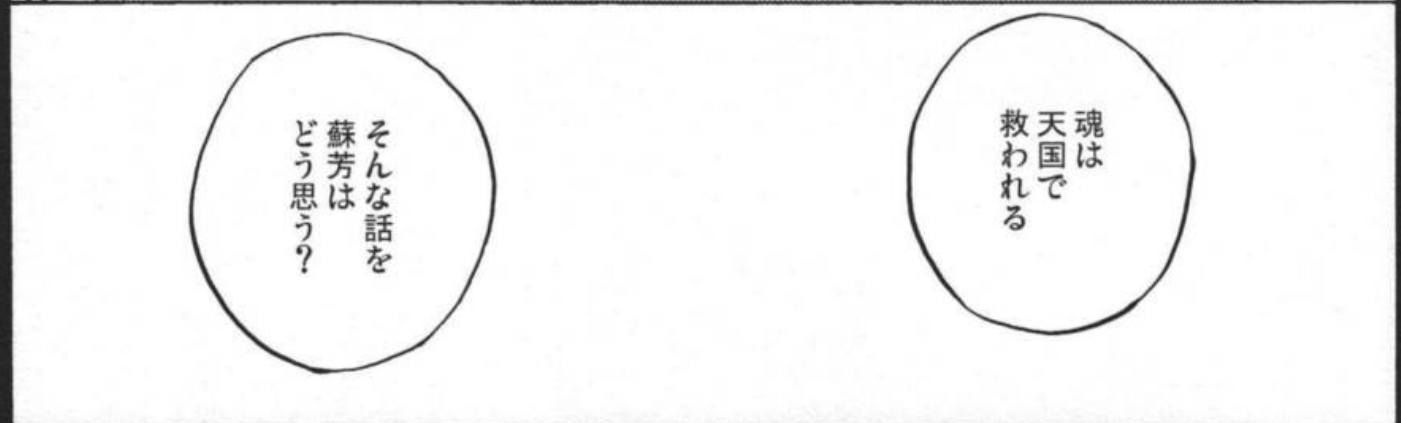
悪い人間の
魂は地獄へ
送られる

善い人間の
魂は天国へ

いわゆる
死後の世界
ってヤツさ

そういう類の
世界の存在を

はあ…



そんな話を
蘇芳は
どう思う？

魂は
天国で
救われる

そうだなあ

信じるっての
より

天国はね

あつたら
ステキかなあ
ってカンジ?

蘇芳
らしいね

くす

なんだよー
そっちから
振ってー

そういう
紫苑は
どーなのさ!?

もちろん
そんなモノが
存在するなんて
思っていないよ

人間はただの
生物の一種で

死ねばただ
無に還る
だけさ

「死後の世界」は
死への恐怖を
制御しようとして
生み出された方便で

死んだ後の
救いなんて
とても合理的とは
言えないね

現実的に
救われなきゃ
意味が無いしね

まあでも…

信じることで
気が紛れるなら
それもいいかもね

さすが
契約者…

夢が無い

ふんふん

はあ…

で…何で突然
そんな話を?

蘇芳
僕はね

「天国」は自分で
つくるものだ
って思うんだ

つくる
…?



神サマか
権力者か

誰かが用意して
くれてると
期待せずに

自分で自分の
天国を創る

自分が望む
自分の為の
世界を

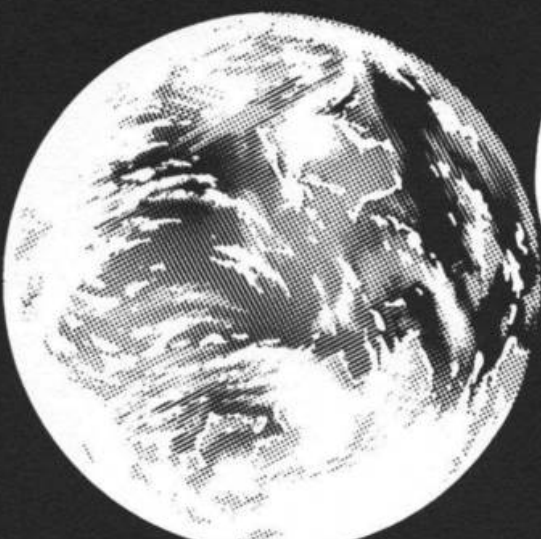
15

いつかこの世に
災厄が訪れて
人類が滅ぶこと
になるとしても

だからこそ

ただ待たずに
足掻くん





僕は
僕が望む地球を
模造りたい

紫苑には
夢があるん
だね

……
そっか

契約者は
夢が無いんじゃ
なかった？

そうさ
夢じゃない

実現可能な
目標さ

そのために
僕もパパも
動いている

あ
イジワルだな
紫苑は——

いつか蘇芳に見せてあげるよ

きっと蘇芳も
気に入るはずさ

僕が目指す
天国を

ザ

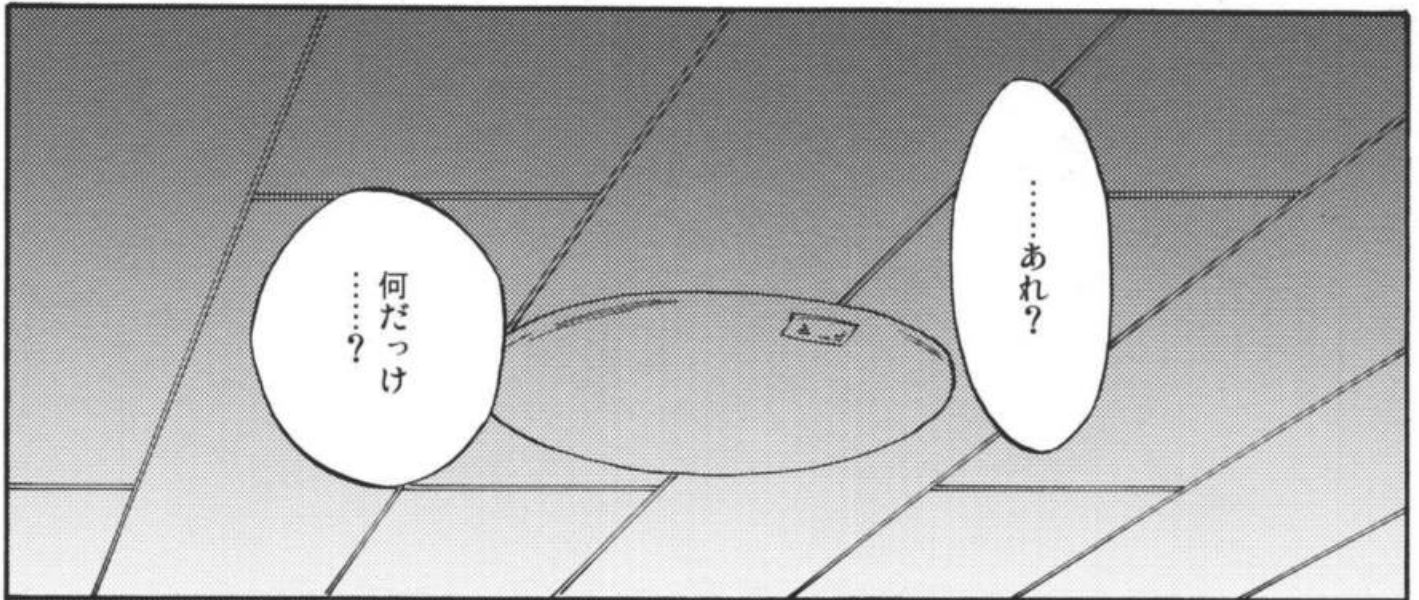
僕らの
地球を

僕らが望む

ア

お姉ちゃん







なんていうか…
とても懐かしい
ような

そういう
感じは
憶えてる

すごく
身近な
誰かが

ボクに大切な
コトを話して
くれたような…



まるで
赤ちゃんの頃の
ううん

前世の
記憶みたい
な……



あのね
蘇芳

僕には
その

「前世の記憶」が
遺ってるんだ



え
ジュライ君?

その世界では
争いが絶えなくて

僕たちはずっと
戦っていたんだ

僕も
蘇芳も



たくさんの方が
死んだよ

優しい人も
哀しい人も

強い人も
弱い人も

蘇芳にとって

大切な人も...



僕は
「蘇芳とずっと
一緒に居たい」

そう願って
その世界を
後にした

やがて蘇芳が
行くであろう
この地球に

僕も行きたいと
願ったんだ



蘇芳のために
模造られた

この平和な
地球にね



……
って



ドラマチックな
夢とか見ると
何かそんな
気持ちになる
ものだしね

まあ
こーゆーのは
大体気のせい
だよ多分

そんな
モノかなあ……

ちやんと
信じたのには……



冗談
だけどね

そんな
モノだよ

少しだけ
ウツ

「彼」の口
だけは
言えない

忘れたままで
いてほしい



.....

ズルいな

僕は



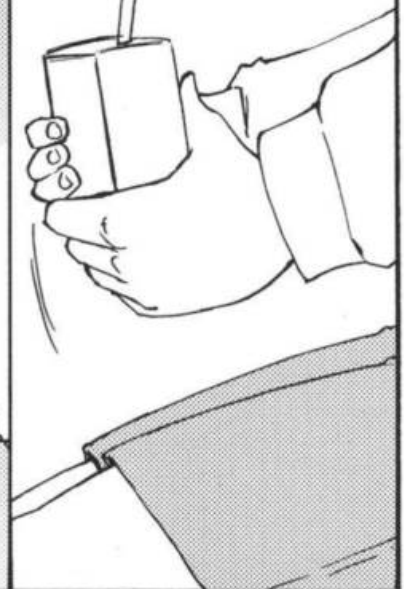
でもね
蘇芳

これだけは
言えるよ

真実が
どうであれ
何であれ

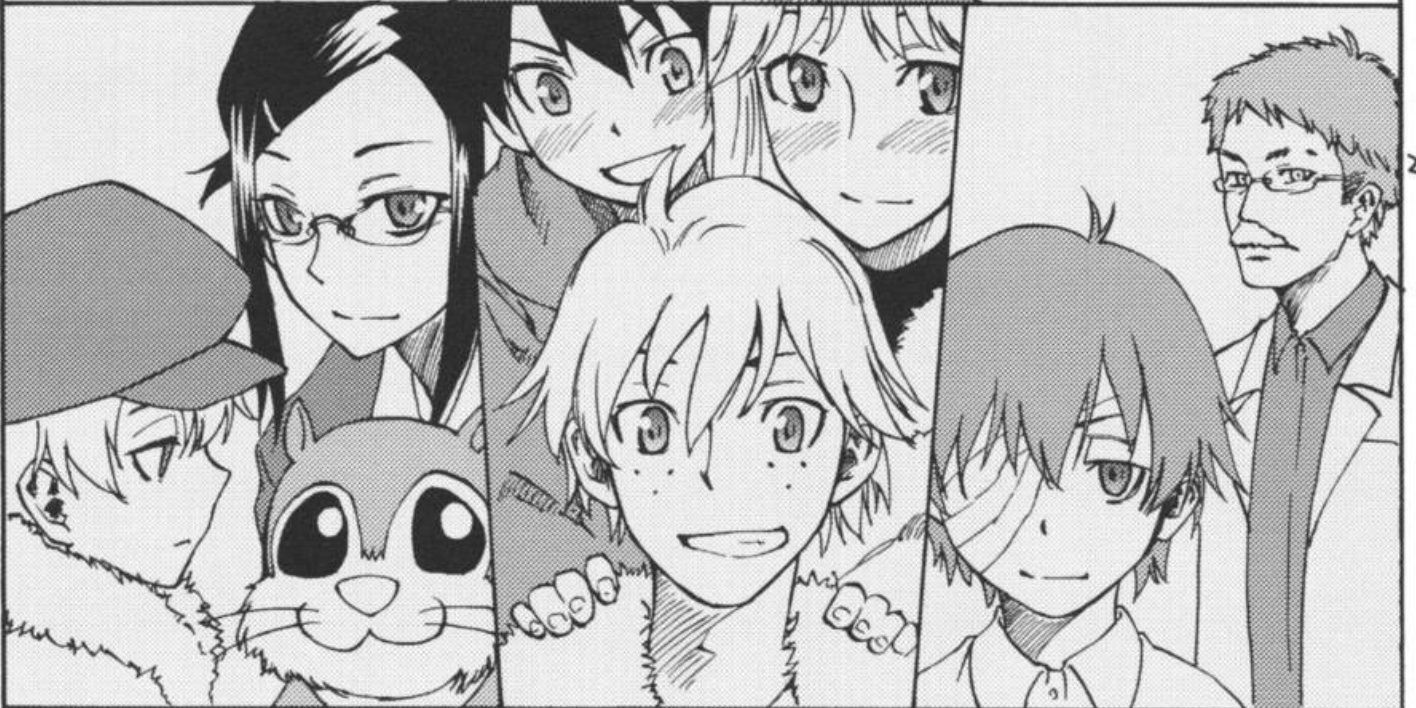
僕は
蘇芳が居る
この地球が
大好きだよ

そして



蘇芳は
蘇芳が知るより
ずっと多くの
人たちに

愛され——
大切にされて
いたんだよ



俺は
「お前」の事しか
知らない

コビーも
何も

俺にとつての
「蘇芳」は
「お前」だ



蘇芳



わかる

思い出せない
けど



幸せ
だった

ボクは
きっと



誰かの
想いも

……
ありがとう



……
ありがとう

ボクの
想いも

ボクの
天国だ

その全てが





real
X-RATED